

恐竜の世界

The Age of Dinosaurs

は 虫類は古生代石炭紀後期（約3億年前）に出現しました。そして、中生代三畳紀終わりのころ（約2億3,000年前）から多様化しはじめました。陸上には恐竜が、空には大きな翼を広げて飛ぶ翼竜がいました。そして海の中には魚のような形の魚竜や紡錘形のからだをした首長竜、海トカゲなどが泳いでいました。恐竜をはじめとするこれらの爬虫類は、中生代が終わるまでおよそ1億6,000万年ものあいだ栄えました。

中生代爬虫類の系統

古生代ペルム紀（約2億7,000万年前）には、後に哺乳類につながる単弓類が栄えていましたが、ペルム紀末（約2億5,200万年前）には地球史上最大の大量絶滅が起こりました。その後、中生代三畳紀に著しく多様化したのは、竜弓類から分岐した爬虫類でした。トカゲやワニ、カメをはじめ、海には魚竜や首長竜が、空には翼竜が、陸には恐竜が出現

しました。それらは中生代を通じて大繁栄し、一部には巨大化する種類も現れました。

中生代白亜紀末（約6,600万年前）に再び起きた大量絶滅で、多様化した爬虫類の多くは絶滅しました。しかし、ジュラ紀に恐竜の一部から進化した鳥類は、この大量絶滅を乗り越え、新生代に入って多様化しました。



恐竜の歯

恐竜の歯の形から、どんな物をどのように食べていたかを知ることができます。肉食恐竜は、先のとがった歯やナイフのような歯をもっていて、肉につきさしたり引きさいたりするのに都合のよいつくりになっています。いっぽう植物食の恐竜は、葉をすき取ったり、切ったりするなどさまざまな種類の歯をもっています。



左 ; ディプロドクス、葉をすき取る。
左中 ; ダスプレトサウルス（きょうし頬歯）、肉を切り裂く。
右中 ; ティラノサウルス（ぜんじょうがくし前上顎歯）、肉を切り裂く。
右 ; トリケラトプス、葉を切る。



プテラノドン・ロンギケプス
（アメリカ合衆国 カンザス州産）

空を飛ぶ爬虫類

陸上に恐竜が栄えていた時代に、空へと活動の場を広げた爬虫類が翼竜です。翼竜は、空中に進出したはじめての脊椎動物です。長くのびた前足の指と皮膚が変化した、大きな翼を身につけ、体をつくっている骨は鳥のように軽くなっていました。また、頭骨は飛ぶときや水中の餌をとるときに、空気や水の抵抗が少なくなるような形をしていました。

海を泳ぐ爬虫類

魚のような形をした魚竜や首が長く紡錘形のからだをした首長竜、カメやトカゲの中のあるグループは、海へもどった爬虫類です。なかでも魚竜（下の写真）は、4本の足や尾が魚のヒレのようになり、

海の生活に適した姿をしていました。また、海に適応したモササウルスの仲間も、4本の足や長い尾の先がヒレのようになっていたと考えられています。



ステノプテリギウスの一種
（ジュラ紀前期 ドイツ ホルツマーデン産）